

令和2年3月19日

足立区立栗原小学校
校長 田中 泰徳様

開かれた学校づくり協議会
会長 星野 敏男

平成31年度 学校関係者評価書

1. 自己評価書全般について

重点-1 「学力向上」

学力向上については今年度も十分な成果が得られていると思います。放課後、長期休みなどの時間を効率よく活用し、課題のある子どもたちの底上げを図る取り組みの成果が結果に出ていると思いました。学力調査の国語については目標の通過率をわずかに下まわっているようですが、この点について、アンケートによれば読書が好きな児童が多いので、更に読書内容について話し合い、表現力を高めていけたらよいのではないかと思います。また、国語力の向上は一朝一夕にできるものではなく、成果もはかりづらい面もあると思います。すべての科目の基礎になりますし、コミュニケーション能力にも大きくかかわるので今後も重点的に取り組んでいただきたいと思います。また、ICT教育、英語などの新たな取り組みにも期待しています。

重点-2 「豊かな心」

あいさつについては毎年課題となりますが、朝の登校見守り等をしていて以前よりもあいさつができていますと実感しております。ただ、個人差があり積極的にあいさつできない児童もいるため継続的な取り組みが必要と思われます。

人とのかかわりについては昨年度より児童アンケートの評価が高く、安心しています。異学年交流については登校班による集団登校がベースとなっていると思いますので、登校班の伝統を大切に守ってほしいと思います。

自分の物を大切に出来ない子が、公共の物や友達のを大切にすることは出来ないと思うので、身の回りの整理整頓はとても大切だということを子どもたちにもっと伝えてほしいと思います。

美しい学校については古くて狭い教室というハンディがありながらも、整理整頓が行き届いているように見受けられます。

いじめ防止および不登校への早期対応については先生方の観察、指導により大きな問題もなく安心しています。ただ、いじめの認知件数が例年ほぼ変わらないのが気になります。アクシデントに至る以前のインシデントの件数をより多くカウントできればよいのではないかと感じています。大人の気付きを学校だけでなく、家庭、地域の強化していくことが課題だと思います。

重点-3 「たくましい体」

この点についても栗原小学校では毎年課題となっています。校庭が狭いことなど物理的な環境も影響していると思いますし、また、児童一人ひとりで考えると限られた時間の中、学力向上とは相反する関係も見逃せないと思います。体力合計点で都平均を超えたことは大きく評価できます。休み時間などの短い時間を使って、体力作りをする取り組みは、これからも続けてほしいと思います。給食の残菜率が低いのも先生方のご指導、栄養士の先生の工夫の賜物だと思います。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

今年度も、校長先生はじめ諸先生方は、子どもたちはもちろん保護者、地域にも十分にご理解、ご協力をいただき感謝しております。今後とも、栗原小学校に合った具体的な連携手段を一緒に模索していけたらと思います。

3. その他

今年度は年度末の時期にコロナウィルス感染拡大防止のため、先生方、保護者の皆様、何より子どもたちに大変な苦勞、不自由があり残念に思います。改めて東日本大震災のことを思い出しましたが子どもたちの命を守るため我々大人が覚悟を持って当たらなければならない事態と認識しております。幸い栗原小の子どもたちの生命・身体は守られているため、今後何らかの形で取り返していければと切に願います。